

日本作業療法教育研究会ニュース 第 63 号

2017年 5月 1日発行
日本作業療法教育研究会

＝紙面案内＝

1～3 面 : 特集 (国家試験)
4～7 面 : コラム (学内の取り組み)
8～9 面 : 事務局からのお知らせ

事務局
〒723-0053 広島県三原市学園町 1-1
県立広島大学 保健福祉学部 古山千佳子
TEL・FAX : 0848-60-1237
E-mail otkyoiku@gmail.com

～ 特集 ～

第52回 作業療法士国家試験を終えて

平成 29 年 2 月 26 日に第 52 回作業療法士国家試験が実施されました。そこで経験豊かな会員の中から、YMCA 米子医療福祉専門学校の田住秀之先生と昭和大学の三橋幸聖先生に国家試験に関する総括と学内での対策についてまとめていただきました。

第 52 回国家試験を終えて

YMCA 米子医療福祉専門学校 田住 秀之

第 52 回作業療法士国家試験が 2017 年 2 月 26 日に実施された。今回の合格率は全体で 83.7%，現役では 90.5%であり，国家試験出題基準の見直しが行なわれ過去 10 年で最も高い合格率となった昨年度を下回る結果となった。

日本作業療法士協会からは国家試験問題に関する意見書として，養成校 186 校（199 課程）中，121 校（65%）から不適切とする回答があったものから 8 題が不適切問題として厚労省へ提出されたが，結果的に採点除外は専門（作業療法士）1 問、共通問題 2 問の計 3 問であった。最終的な結果からみても，問題の難易度は概ね例年通りと考えるが，極端に難解と感じる問題が複数問あったこと，午前中の第一問目が不適切問題であったことなどは，試験直後の学生の手ごたえのなさや動揺につながっていたように思う。

本校現役生では，全国の合格率は上回ったものの昨年続く全員合格とはならず，次回に向けた対応が始まったところである。本校では，各学年での学習を促進するために 1 年次から 1 年～4 年の縦割りグループを作って下級生の学習支援を実施し，2 年次に 2 日間，3 年次に 3 日間の基礎

医学に関する集中講義を設けている。4年次は実習終了後に外部講師による8日間の国家試験対策講義、内部教員による3日間の専門問題に関する集中講義、1週間に1回の領域ごとに小分けした模試等を実施している。

各学年の集中講義は、国家試験の範囲において何からどう勉強していくか、なにをどこまで勉強する必要があるかを早い段階で彼らが予測できる機会提供に努めること、それに合わせて自分に必要な学習の計画が立てられることが目的である。

ここ数年にわたり、カリキュラムの調整や不合格となった学生に対する研修生制度、PDCA サイクルによる国家試験対策の計画と見直しなど、様々な取組みを検討・試行しているが、大切なことは、学生自身が国家試験に向かう過程でとるべき行動、求められる行動に対して“必要性の認識”を持てることだと考えている。そして、自らの結果に責任を持ち、臨床に出ることになっても、もう一度受験に向かうにしても、その結果を受けて次に自らが取るべき行動へ移れること、反応していけることが大切である。

前回、本研究会の教育学術集会に参加し、初学者の到達レベルを考えるにあたっては、コンピテンシー、コアカリキュラム、国家試験の出題基準をも含めて整理していくべき課題であるという認識を深めることが出来た。彼らに提供すべき手助けは、当面の課題をクリアさせる学内の仕組みづくりと同時に、生涯にわたって成長し続けられる基礎と導きであるということも認識し、本研究会の各種働きかけに会員としても協力をしていきたいと思う。

正解かどうかをその時点ではっきりすることが難しい状況が多い中、今後も様々な場面で学生と共に最善の方法を試みながら、自ら思考し行動できる主体性を育むことを心掛けて関わってきたい。

第52回国家試験を終えて本学の国家試験対策を振り返る

昭和大学保健医療学部作業療法学科 三橋 幸聖

平成29年2月26日に行われた、第52回作業療法士国家試験の結果は、全体の合格率が83.7%（新卒90.5%）であった。昨年度の第51回は全体87.6%（新卒94.1%）であったことからすると全体で4ポイント低下してはいるが、昨年度、国家試験出題の新基準に移行後、近年70%台で推移してきた合格率（第49回（86.6%）を除く）を2年連続で上回る結果となった。試験問題の内容は概ね、国家試験出題基準に準拠した出題傾向と考えられ、今年度も新基準への変更による混乱は生じていないように思われるが、今回、OT協会では厚生労働省に対して、複数解が考えられる問題5題（OT専門分野（実地1題、一般1題）、専門基礎分野3題）及び選択肢からは解の選択が困難な問題3題（OT専門分野（実地2題）、専門基礎分野3題）、またその他の意見として3題の合計11題についての意見書を提出した。3月29日厚生労働省より発表された正答ではOT実地問題で1

題，専門基礎分野で2題の計3題が採点除外等の取り扱いがなされた。

さて本学での国家試験対策であるが，低学年より模擬試験を行うなど早期からの対応を行っている。しかし，実際に学生が本格的に取り組むのは，やはり臨床実習終了後の秋からというのが実情である。OT学科の特徴的な国家試験対策としては，12月中旬に業者模試を実施し，その後の自己採点の結果を基に成績下位者を選抜し「選抜クラス」と称して学内の教室で特訓（試験勉強）を一定期間実施していることが挙げられる。この特訓は国家試験の過去問を使用し1日の午前中は国試過去問の午前あるいは午後の100問を国家試験同様の2時間40分の試験形式で解き，午後はその復習を行うというサイクルで行う。例年，この時点での成績下位の学生の特徴は，単に勉強不足という人だけでなく，自己流の偏りのある勉強方法をしていることや一定時間勉強はしているが集中力を欠いた学習のために効率が悪いなどである。こうした学生に対して，試験対策の学習は実際の試験同様に真剣勝負の状況で取り組むことを重視して進めている。試験勉強は時間だけかけていても定着がされない場合も多いが，このように毎日が試験という状況で行うと1問をじっくり考える事になり，試験後の復習も意味のあるものになっていく。また，冬休み期間は自宅での学習となるが，1日10時間以上の学習時間を確保するように指導するとともに，1日のスケジュールを記載する学習記録簿を配布し，しっかりと計画を立てること，1日の振り返りを行うことを習慣化していくように促している。そして冬休み明けには2回目の業者模試を実施し，再度成績下位者を選抜した上で国家試験の過去問を1日に2年分（通常の試験時間の約半分で1年分を解くことになる）の400問解くことを出題年度の組み合わせを変えておよそ2週間に渡って実施する。さらに1月下旬・2月上旬に3・4回目の模擬試験・特訓を実施している。こうして12月下旬から集中的に特訓することにより成績下位の学生であっても，およそ過去10年分の国家試験の内容を繰り返し網羅的に学習していくことで総合力が向上し，「分かった」という実感を持ち自信を持つようになってくる。一方で，この選抜クラス以外の学生は基本的には学生の自主性に任せて進めているが，選抜クラスと同様の学習プログラムを行う学生もいる。こうした過程を経てクラスの凝集性も高まり，学生同士の教え合いなどが促進されていく傾向にある。

今回の国家試験を終えての学生の様子をみると，概ね実力が発揮できたような印象であった。しかしながら，今回100%の合格率は叶わなかった現状を考えるとさらなる対策が必要と感じている。

学内での取り組みの紹介

4月も始まり、新たに作業療法士を目指す学生が入学してきました。教員は、学生に対してよりよい教育を提供するために作業療法的観点からいろいろな取り組みをしていることと思います。そこで、今回は、その取り組みを紹介させていただきます。

「ゆとり教育」を受けた学生と向き合う

四国中央医療福祉総合学院 中村 幸輔

2002年より実質的な「ゆとり教育」が実施され、「脱ゆとり」とされる新学習指導要領（小学校：2011，中学校：2012，高等学校：2013）が実施されるまでの約11年の間、2015年度入学生は10年間「ゆとり教育」を受けてきた。「ゆとり教育」については、学習意欲の低下・学力低下・学力格差・躓など数多くの議論がある。そして、いつの時期にどのような教育が必要なのか、また重要な時期を過ぎると修正できないのかなど、いずれの議論もその実態や原因、対策については明確になっていないなか、マスコミや教育関係者などでは、少なからずこれらを問題視し議論を重ねてきた。本学でも実態を早期に把握するために、2013年度より「新入生実力試験」を全学科共通で実施している。試験内容は毎年同様とし、年度別およびクラス別での程度が把握できる。試験成績は100点満点で算出し、2013年度：X+9.2点（SD：11.2）、2014年度：X+11.8点（SD：11.2）、2015年度：X+6.9点（SD：10.8）と、2015年度入学生が最も低値であった。今回、10年間「ゆとり教育」を受けてきた2015年度入学生に対し、学年前期課程（2015年4月からの約4カ月間）において「学力低下」「躓」について、作業療法学科で取り組んだ内容を紹介する。

学力低下については、最も基本的な骨および筋からの学習を促すため、「チャレンジ」と称して課題を細分化し小テストを実施した。「骨チャレンジ」では、①骨標本並べ（頭蓋・脊柱・肋骨・手指および手根骨・足趾および足根骨を除く）②骨標本をポインティングしながら部位名を述べる（a. 脊柱，b. 骨盤，c. 大腿骨・膝蓋骨，d. 脛骨・腓骨，e. 胸骨・鎖骨・肩甲骨，f. 上腕骨，g. 橈骨・尺骨，h. 頭蓋骨，i. 足根骨，j. 手根骨）全11課題とした。「筋チャレンジ」では、教員が筋名を伝え、学生は骨標本を用い起始・停止をポインティングしながら部位名を述べた後、支配神経および髄節レベルを述べる。さらに、その筋の求心性収縮時の運動方向を、骨標本を動かして示す。課題範囲は、a. 股関節Ⅰ：13筋，b. 股関節Ⅱ：12筋，c. 膝・足関節：13筋，d. 肩甲帯Ⅰ：10筋，e. 肩甲帯Ⅱ：7筋，f. 肘-前腕-手関節Ⅰ：7筋，g. 肘-前腕-手関節Ⅱ：9筋，h. 肘-前腕-手関節Ⅲ：6筋，i. 手指：11筋の全9課題とした。1課題の範囲を絞っているため合格基準

は全てを遂行できることとし、再チャレンジは制限なく行えるが、同課題については1日1回までとした。結果、課題達成率は「骨チャレンジ」では全員が全課題達成、「筋チャレンジ」では9課題：18.2%，8課題：27.3%，6課題：45.5%，5課題：9.0%の達成であった。これらの成果として、学年前期課程の運動学および前期科目成績を年度別で比較したところ、運動学成績は2013年度：X+18.2点（SD：19.1），2014年度：X+18.0点（SD：14.8），2015年度：X+29.1点（SD：14.2），前期科目成績は2013年度：X+23.2点（SD：18.6），2014年度：X+21.4点（SD：20.7），2015年度：X+30.8点（SD：8.6）と、2015年度入学生はいずれの年度よりも高値を示した。

次に、躰については、先の「チャレンジ」を実行するにあたり、付随のルールを取り決めて実行した。一つ目は、チャレンジの日程は学生自身が希望日を挙げ、教員へ相談し決定する。二つ目は、教員への相談は学生が教務室へ入室の上、教員を呼び出して行う。三つ目は、教務室およびチャレンジ（小テスト実施教室）への入退室方法の統一。過去、新入生の中には、前期課程で一度も教務室へ入室したことがないという学生も少なくなかった。今回の取り組みにおいて、全チャレンジで教務室への入退室は最低でも14回経験したことになる。また、チャレンジ日程は教員主体ではなく、学生主体で決めるように促したことで、学生の自主性や積極性を垣間見ることができたと感じている。他学科教員や外部講師からは、「教務室へ入室する際の声を聞けば作業療法学科の学生と分かる」や「講義が非常に進めやすい」などの意見も聞かれた。

今回、学年前期課程という短期間での取り組みではあったが、学力格差軽減が示唆されるなど期待以上の成果を感じている。「ゆとり教育」とは関係なく、新入生は何かしらの「夢」を抱いて入学しており、そこには高い学習意欲があると推察できる。鉄は熱いうちに打てというタイミングと、素直に取り組んだ学生の純粋さに尽きると考える。

今後も様々な背景を持つ学生と向き合い、学生が「夢」に向かう一助となるよう努力していきたい。



（下肢 膝）



（上肢 肩）



（体幹 頸椎）



（上肢 肘）

実習セミナーにおけるプレイバックシアターの活用

～経験の共有と共感～

県立広島大学 作業療法学科 古山千佳子

県立広島大学作業療法学科では、約3年前から3年次の地域臨床実習後と4年次の総合臨床実習後のセミナーの一部として、プレイバックシアターを活用した実習の振り返りを行っています。

プレイバックシアターとは、テラーが語るストーリーをアクターがその場で演じる即興劇です（写真1）。司会のコンダクターが観客からテラーを募り、ストーリーを語ってもらいます。それをアクターが即興で演じ、演技に合わせてミュージシャンが音楽を演奏します。テラーは、自分のストーリーを観ることでその時の気持ちを思い出し、思わず涙することも少なくありません。私も初めてテラーをした時、臨床実習の経験を演じてもらったのを見て泣いてしまいました。20年以上前の出来事で、しかも大勢の学生の前だったにも関わらず、涙が止まりませんでした。観客はテラーのストーリーを観ることで自分の経験を振り返り、テラーの経験に共感します。また、アクターはテラーのストーリーを即興で演じるために、テラーの話真剣に聞き、その話の重要な要素（エッセンス）を瞬時につかみ取る必要があります。クライアントの話に真剣に耳を傾け、クライアントに共感し、話の中に潜む意味ある作業を掴み取るといった作業療法士の技能に共通する部分があると感じています。

プレイバックシアターの体験には2種類の方法があります。1つは、プレイバックシアターの公演に観客やテラーとして参加する方法、もう1つはワークショップに参加して、テラーだけでなくアクターやミュージシャンを体験する方法です。実習セミナーで学生は約3時間のワークショップに参加し、簡単なゲームで気持ちを解し、演じる練習をした後に、実際にテラーやアクターやミュージシャンを経験します（写真1, 2）。プレイバックシアターでは、ストーリーを語ることや演じることを強制しません。自ら語りたくなる、あるいは演じたくなる気持ちや、一歩前に入る勇気を大切にします。

学生が実習セミナーで語ったストーリーには、「部屋を動き回り、全くコミュニケーションのとれない患者の前でギターを弾いてみると聞いているようだった。指導者に話すと驚いていた。その人とつながる糸口を見つけたようでうれしかった」といった話や「実習初日、いきなり利用者と話してと言われ、置いて行かれた。心細く、壁際に立ち、自分から話しかけることができずにいた。その時、一人の利用者が声をかけてくれて、とてもうれしかった」といった話など、実習でうまくいったこと、辛かったこと、困惑したこと、クライアントとの経験からスーパーバイザーとの経験まで、多様なストーリーがありました。従来の実習セミナーでは、自分の発表に精一杯で、他の学

生の事例報告を真剣に聞く学生は少ないと感じていました。また、一定の形式にまとめられた事例報告だけでは、学生が何を体験し、どのように感じたかを理解するのは難しいことです。プレイバックシアターでは、どんな些細なことであっても学生は他の学生のストーリーを熱心に聴いています。そして、アクターの演技を観たり、演じたりすることで、他者のストーリーを自分のことのように感じるようです。学生の大半は「演じてもらってスッキリした」、「今まで想像してこなかった相手の気持ちを考えた」、「自分を振り返った」などポジティブな感想を述べます。しかし、その一方でこのセミナーを苦痛に感じる学生もいます。自分から人前に出て経験を語ったり、演じたりすることが苦手な学生もいます。こういった学生に、どのように必要性を理解してもらい、参加してもらうかは今後の課題です。そのためにも、プレイバックシアターを作業療法教育に組み込むことの効果を示していく必要があると考えています。

2017年11月3日（金）～5日（日）の3日間、県立広島大学でプレイバックシアターアジア大会が開催されます。様々な背景の下、アジアの国々でプレイバックシアターに取り組む人たちが集まります。興味のある方はホームページ (<https://appte2017.jimdo.com/>) をご覧ください。



写真1 プレイバックシアターの主な手法 ストーリー



写真2 学生が演じている様子

学術集会のお知らせ

第22回作業療法教育研究学術大会

日程： 2017年11月11日(土), 12日(日)

会場： 首都大学東京 荒川キャンパス

東京駅→日暮里→熊野前 所要時間約 25 分

駅から歩いて 7~8 分

羽田空港→浜松町→日暮里→熊野前 所要約 1 時間

内容: 講演 一般演題 ワークショップ シンポジウム等 企画中

随時, 詳細を報告していきますので, ご参加をお待ちしております。

事務局だより

【じむきょく】 - 事務局よりお知らせ -

会員募集のお知らせ

日本作業療法教育研究会では, 会員を募集しています。

この研究会では, より質の高い作業療法教育の実現を目指して, 教育現場における様々な問題提起や問題解決に取り組んでいます。年1回の学術集会, 年1~2回の学術誌「作業療法教育研究」の発行, 年2~4回のニュース発行, ホームページを通じた情報発信と情報共有が主な活動です。現在の会員数223名, 賛助会員2です。作業療法士教育に興味, 関心のある方は, 是非ご入会ください。お待ちしております。

入会金: 1, 000 円 年会費: 3, 000 円 賛助会員 一口 10, 000 円

振込口座 郵便振り替え 01320-2-58224 日本作業療法教育研究会

詳細は, 日本作業療法教育研究会ホームページ 入会案内 <http://www.joted.com/> をご覧ください。

問い合わせ先 事務局 広島県三原市学園町 1-1

県立広島大学 作業療法学科 古山研究室内

E-mail: otkyoiku@gmail.com

OT 教育研究会ニュース メール配信します！

OT 教育研究会ニュースのメール配信を始めました。情報をより早く、お届けすることができます。これまでの郵送からメール配信へ切り替えご希望の方は下記メールアドレスまでご連絡ください。なお、登録いただいたメールアドレスには学術集会のご案内など本研究会のいろいろな情報をお送りしていく予定です。ホームページもあわせてご覧ください。 otkyoikunews@gmail.com

研究費助成募集

2016 年度日本作業療法教育研究助成について

日本作業療法教育研究助成は、作業療法教育の発展に寄与する研究に対し、1 研究 5 万円、1 年度 3 研究を上限に助成する制度です。残念ながら 2016 年度は採択された研究課題はありませんでした。次年度（2017 年度）は、2017 年 11 月頃に募集を開始する予定です。是非、ご応募ください。詳しい応募要項については、日本作業療法教育研究会ホームページ <http://www.joted.com/>（研究費助成）をご覧ください。

「作業療法教育研究」投稿原稿募集のお知らせ

日本作業療法教育研究会では、機関誌「作業療法教育研究」の発刊を年 1 回行っています。広く会員の皆様からの論文の投稿をお待ちしております。機関誌にあります投稿規程をご覧ください。規定に沿って準備し事務局あてにお送りください。ご不明な点などございましたら、研究会事務局までお問い合わせください。なお、査読は受付日順に行います。原稿受理日によっては、次号の掲載になることもありますので、あらかじめご了承ください。

(ホームページ <http://www.joted.com>)

編集後記

4 月も後半になり、新入生の特徴もわかり始めた今日この頃、「1 年の計は元旦にあり」とあるように教育者は「1 年の計は 4 月にあり」というべきでしょうか？4 月に「学校がおもしろい」「作業療法を学んでみたい」そのような関わりができるように努力しています。（西井正樹）

今回、初めてニュースの編集に携わらせていただきました。このような新しい「作業」は、自身の習慣がないため、うまく技能を発揮することが難しいですが、完成した際の達成感は、慣れている作業にはないものがあります。そんな新しい「作業」の意義も学生に伝えられたらいいなと考えています。（藪脇健司）